

令和7年度 秋葉区組織目標

組織名	秋葉区	区長	長崎 忍
組織の目的・方向性	秋葉区では、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かしたまちづくりを推進します。		
(参考) 関連する総合計画における政策指標※	・職業を理由とした県外との転出入数 ・市民の声をしっかりと聴く体制が整っていると思う市民の割合 ・新潟市は子育てしやすいまちだと思う保護者の割合 ・観光入込客数 ・地域団体、民間事業者、学校など多様な主体との協働数		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

秋葉区組織目標

秋葉区では、新潟市総合計画 2030、区ビジョンまちづくり計画や地域福祉推進計画に基づいて、時代の潮流を踏まえつつ、区の将来像である「里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち」を実現するため、秋葉区の特性を生かした「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」、「やさしさがあふれる楽しく元気なまち」、「歴史と個性を活かすまち」、「可能性を生み出し、育て、活かすまち」を目指します。

この方針のもと、今年度は次の5つの目標に重点的に取り組みます。

重点目標

- 1 「アキハスプロジェクト」の理念のもとで、秋葉区の特性或魅力をブランド化し、戦略的に発信することにより、地域アイデンティティの醸成を図るとともに、「移住フェア」などの開催による移住促進に取り組みます。
また、秋葉区内を走る区バス・金津線・下新線について、こどもや若者が気軽に利用できる機会を創出し利用促進を図ることで、地域全体で支える持続可能な公共交通ネットワークを構築します。
- 2 区役所の窓口サービスにおける市民満足度の一層の向上を図ります。
- 3 こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、既存施設を活用し、地域コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを推進します。
- 4 地域資源を活かし、秋葉区の交流人口の拡大を図ります。また、新潟薬科大学等との連携により互いの資源や成果を共有するなど交流を深め、教育機関の英知を活かした施策展開や地域との連携につなげることで、質の高いまちづくりを進めます。
- 5 新津川や能代川沿いの遊歩道のほか、秋葉公園内の環境整備を秋葉区 SDGs トライとして市民と協働で行います。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況				
	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	2
取組結果	【重点目標１】達成状況＝達成 「アキハスムプロジェクト」 ・ 8 月にフィールド体験ツアーを開催し、収穫体験やにいつ夏祭りに東京農業大学の学生などが参加し関係人口の創出を図りました。 ・ 東京農業大学で開催された「農大グランマルシェ」や、明大前商店街フェスに秋葉区ブースを出店するなど首都圏での移住・交流・関係づくりを行いました。 ・ 12 月に AKIHA 移住コミュニティミーティングを開催し、区で活躍している人や関心のある人たち 30 人が参加し、情報交換を行いました。 【重点目標２】達成状況＝未達成 ・ 前期アンケート結果 平均評価点 4.37 点 各評価項目とも平均評価点 4.2 点以上、昨年度前期アンケートの平均評価点 4.34 点から向上 ・ 後期アンケート結果 平均評価点 4.56 点 各評価項目とも平均評価点 4.4 点以上、昨年度後期アンケートの平均評価点 4.47 点から向上 課題であった接遇に関する評価については、改善傾向となりました。窓口アンケート結果をもとに課題を共有し、改善策の検討・実施につなげました。 【重点目標３】達成状況＝達成 ・ こどもの居場所づくりについて、金津コミュニティ振興協議会や金津小・中学校等と連携しながら、既存施設を活用して計 7 回の居場所づくりを開催し、延べ 207 人の児童・生徒が参加しました（1 回当たり平均 29.6 人）。11 月及び 12 月は近隣でクマ出没のため中止しましたが、それ以外の各月については、予定どおり開催し、こどもたちに様々な遊びや学びを提供しました。 【重点目標４】達成状況＝一部未達成 ● 里山未来創造事業（マウンテンプレイパーク） ・ 25 回開催、872 人（平均 34.9 人）が利用しました。 ・ SNS を活用した発信に加え、新たな PR チラシを継続配布し広報を行いました。 ・ 前期は目標以上の利用者数でしたが、夏場の猛暑日、クマの出没情報等の影響から屋外での活動が避けられたため著しく利用者が減少しました。 ● 廃止石油坑井封鎖事業 ・ 有識者会議の意見を踏まえ、小口地区の井戸 1 か所の封鎖を 7 月に完了しました。今後は、朝日地区にある 4 か所の石油井戸の封鎖作業に取り組みます。 ● アキハ大麦・小麦・もち麦推進 ・ 小麦生産者・関係団体の合同研修会（8 月）の開催を支援しました。（37 名参加） ・ 各種イベントへの出店、小中学校の総合学習や学校給食メニュー、商品開発、秋葉区パンまつり等による秋葉区産麦類の周知に努めました。 ● 花まる鉢花推進事業・園芸推進事業 ・ 鉢花見本市を開催し、買参人等関係者向け WEB 版見本市の運営を行いました。 ・ 新日本海フェリー船内・ターミナルにおいてアザレアを展示しました。 ・ 日本ボケ展を開催しました。 ・ 若年層への普及を目的とした親子園芸講習会を開催しました。（20 組 40 名参加） ● アキハ「鉄道物語」 ・ J R、商店街連合会、観光協会、鉄道資料館等、関係者との連携により観光案内所、レンタサイクルの運営を行うとともに、S L ばんえつ物語 100 万人乗車達成のイベント等を実施しました。 ・ S L 運行日における観光案内所開設時間の拡大を継続して実施しました。				

	・ S L 運行日や特別列車運行日のお見送り、お出迎えの回数を増加させることで秋葉区の観光 P R 及び観光案内所の周知、利用者サービスの向上に努めました。 ・ 新津駅を中心とした鉄道のまちを P R することで交流人口の拡大を図るとともに、首都圏イベントへの出店を行い、地元物産の販路拡大と関係人口の創出に努めました。 ●新潟薬科大学等との連携事業 ・新潟薬科大学等の教員、学生との連携、各種団体の協力等により新潟薬科大学キャリア形成実践演習を実施しました。 ・ 10 事業を計画しましたが、クマの出没情報等により一部が中止となりました。 【重点目標 5】達成状況＝一部未達成 ・「秋葉公園魅力アップ事業」で支障木・危険木の伐採を行い、伐採木を利用し、ウッドチップを作成しました。また、伐採木の利活用について、秋葉公園クリーン作戦にて市民協働での環境整備に取り組む予定であったが、丘陵部でのクマの目撃情報の増加、及び、新潟県が熊出没特別警報を発表したことから市民協働での環境整備は中止とし、業務委託にて秋葉公園内にウッドチップを敷き詰めました。 ・区職員を対象とした区長研修プロジェクト「クヤクショソーシング」により、秋葉公園のリニューアルコンセプト（案）の実施検討を行い、桜の植樹位置を検討しました。
今後の方向性	【重点目標 1】 ・区民主体によるまちづくりを推進するため、秋葉区の特長・魅力をブランド化し発信することによるシビックプライドの醸成を図るとともに、首都圏等の大学生を対象とした「フィールド体験ツアー」を開催し交流・関係人口の創出に取り組めます。 【重点目標 2】 ・窓口対応などの課題について効果的な改善策を講じ、検証を行うため、継続してアンケートを実施し市民満足度の一層の向上に取り組めます。 【重点目標 3】 ・こども真ん中の秋葉区づくりを実現するため、今年度試行実施で判明した課題等を検証し、令和 8 年度は、開催地区を 5 地区に拡大し、引き続き、各コミュニティ協議会と連携を図りながら、地域のこどもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくりを実施します。 ・児童館の設置について、既存施設の「新津健康センター」を有効活用し、令和 8 年秋ごろのオープンを目指して準備を進めます。 【重点目標 4】 ・広報の強化、事業運営などの改善検討を行い、次年度の企画に反映させることで、各利用者の増を図ります。 ・各種関係先との連携を継続するとともに、新たな関係先、連携の形を検討することで事業の継続、拡充に努めます。 【重点目標 5】 ・市民協働による環境整備活動 市民協働での環境整備活動に多くの方々に参加いただき、持続的な活動を実現するためには、担い手となる子育て世代や学生・若者への周知・啓発が重要です。関係団体と連携し、多方面での広報・周知活動を進めていきます。 ・引き続き秋葉公園の魅力アップに資するよう、本年度作成したウッドチップを公園園路に敷き詰め、環境整備を推進します。 ・秋葉公園リニューアルコンセプト（案）で整理した内容を踏まえ、区民と一緒に桜の植樹等を行い、「映えスポット」を創出します。